

学位論文審査の要旨

学位申請者	坂田 侑奈 人間発達科学専攻2016年度生	論文題目	大学生の自閉スペクトラム症特性と情緒的症状との関連メカニズム —親の自閉スペクトラム症特性および情緒的サポートに着目した検討—
審査委員	主査:	上原 泉 教授	インターネット公表
	副査:	大森 美香 教授	
	副査:	伊藤 大幸 准教授	
	審査委員:	今泉 修 准教授	
	審査委員:	齊藤 彩 助教	
学位名称	博士 人文科学	学位論文の全文公表の可否 :	否
(英語名)	(Ph. D. in Psychology)	「否」の場合の理由 <input type="checkbox"/> ア. 当該論文に立体形状による表現を含む <input type="checkbox"/> イ. 著作権や個人情報に係る制約がある <input type="checkbox"/> ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている <input checked="" type="checkbox"/> エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている <input type="checkbox"/> オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている ※本学学位規則に基づく学位論文全文のインターネット公表について	

学位論文審査・内容の要旨

坂田侑奈氏は、一般人口集団内の大学生の自閉スペクトラム症特性と情緒的症状との関連メカニズムについて、親の自閉スペクトラム症特性と情緒的サポートの各要因がもたらす効果に焦点をあて、縦断データや大規模データを用いた実証的検討を行い、博士論文としてまとめられた。国内外を問わず、自閉スペクトラム症をはじめとする発達障害への社会的な関心は高まっており、発達障害の症状に併存する抑うつや不安などの情緒的症状の予防や支援の必要性が指摘されている。自閉スペクトラム症特性と情緒的症状の関連において影響を及ぼす可能性のある要因が、国内外のいくつかの先行研究で検討されてきたが、本人が知覚する親からの情緒的サポートの効果を、本研究において初めて実証的に明らかにした点が、特筆に値する。また、親からのサポートの要因のみに留まらず、友人からのサポートも考慮に入れ、自閉スペクトラム症の遺伝率の高さを踏まえた上で、親の自閉スペクトラム症特性の高さが親からのサポートにもたらす影響を示唆した点が、高く評価された。

本論文の内容は以下のようにまとめられる。第一に、大学生の自閉スペクトラム症特性の高さは、後の情緒的症状の高さを予測することが明らかとなった。第二に、大学生の自閉スペクトラム症特性の高さは、親、友人から受けていると知覚する情緒的サポートの少なさを媒介し、情緒的症状の高さへと関連することが示された。第三に、大学生自身ならびに父親の自閉スペクトラム症特性の高さは、父親から受けていると感じる承認の少なさを媒介し、大学生の情緒的症状の高さへと関連することが明らかとなった。第四に、両親の自閉スペクトラム症特性の高さは、大学生の知覚する情緒的サポートの少なさと両親との不和を媒介し、大学生の情緒的症状の高さに関連するメカニズムが示唆された。

続いて、審査過程と審査結果の概要について述べる。審査当初より、研究テーマの着眼点のオリジナリティや社会的意義、多変量解析により各変数間の関連メカニズムを実証的に明らかにしている点は高く評価されたものの、研究内で扱われている各概念の定義の曖昧さや各仮説モデルの根拠となる先行研究に関する記述が不足している点、本研究により得られる臨床的示唆に関する記述を充実させる必要性が指摘された。また、統計学的手法の再検討や分析結果の追加に関する助言を受けた。その後、それらのコメントや助言を十分に考慮した上で、公開発表時には適切かつ丁寧に修正がなされていたことが確認された。公開発表時の発表では、明瞭なプレゼンテーションならびに質疑への適切な応答がなされた。なお、審査過程を通じて英語能力についても審査が行われたが、国際学会において口頭発表を行った経験があり、共著者として従事した論文が国際雑誌にも掲載されていることから、英語力は満足のいくレベルに達していると判断された。本審査委員会では、今後もグローバルに活躍することが可能な専門性に基づく発信が期待できるとの見解で一致した。

以上のとおり、学位論文の質、発表技量、研究技量、英語力のいずれにおいても、満足のいくレベルに到達していることが、最終審査時に本審査委員会にて確認された。したがって、本審査委員会では全会一致で、お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科の学位、博士(人文科学)、Ph. D. in Psychologyを授与するのに値するものと判断し、合格とした。